

原価計算の基礎編

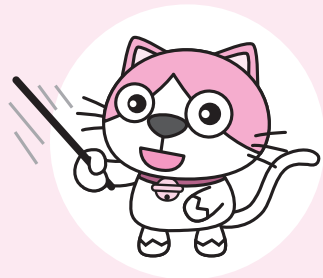
第1章

原価計算の基礎

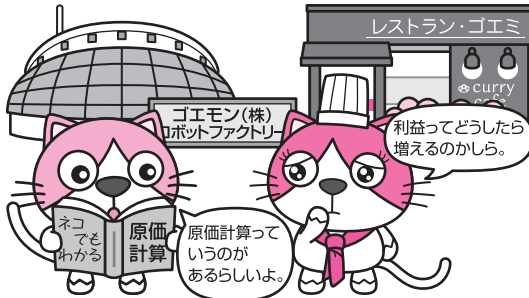


モノを仕入れて販売するときは、その仕入金額が原価になるけど、
モノを作って販売するとき、その原価は
どうやって計算するんだろう？

ここでは、原価計算の基礎についてみていきましょう。



原価計算の必要性



ゴエモン株式会社でロボットファクトリーを経営するゴエモン君とレストランを経営するゴエミちゃん。会社の利益をより大きくするために原価計算について勉強することになりました。でも、原価計算はじめてなので、まずは原価計算の基礎について調べてみることにしました。

● 原価計算の必要性

ロボットを作っている製造業や、レストランで食事を提供するサービス業でもそうですが、商売を継続的に行うためには資金となるお金が必要となり、そのお金を得るためには利益を出す必要があります。

そして、その利益を計算するためには「モノやサービスを作り出すのにいくらかかったのか?」という原価の計算が必要となります。

$$\text{売価} - \text{原価} = \text{利益}$$

たとえばレストランのランチメニューでカレーライスを提供している場合、その売価はいくらに設定すれば良いのでしょうか?

もちろん、ライバル店の牛丼やおそばの値段も意識する必要がありますが、そもそも利益を出すためには、そのカレーライスを作るためにかかった材料費や人件費といったカレーライスを作るための原価がわか

らなければ利益の計算できません。

つまり、原価計算の目的は原価を計算しつつその原価に見合った適正な売価を設定し、各製品・サービスごとの損益を計算することです。

具体的には、資源の消費がどの製品・サービスのためになされたかを把握します。ここで消費とは「使うこと」をいいます。

● 原価計算の目的

原価計算の目的には主に次のようなものがあり、これらの情報を、利害関係者、経営管理者、部門の責任者などが利用します。

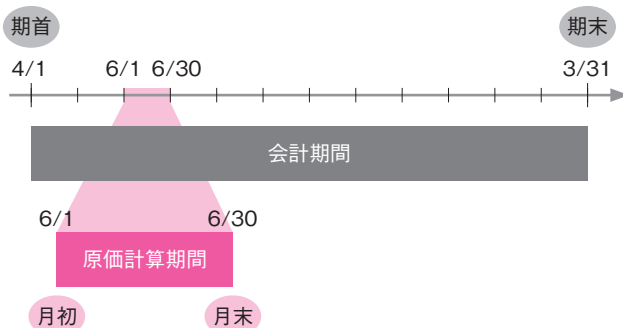
財務諸表作成目的	会社の外部の利害関係者が利用する財務諸表（貸借対照表や損益計算書）を作成するための資料を提供するため
業績評価目的	経営計画を立案するため、およびその経営計画を定期的に確認するための資料を提供するため
意思決定目的	経営者が意思決定をするために必要な原価の資料を提供するため

● 会計期間と原価計算期間

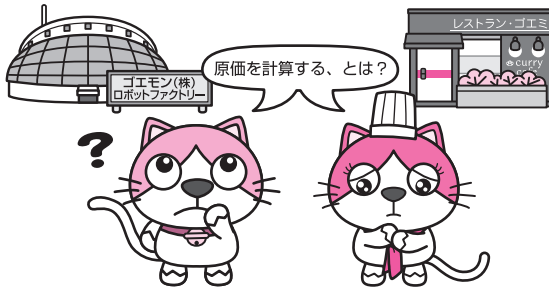
原価計算を行う期間（原価計算期間^{げんかけいさんきかん}といいます）は、会計期間とは異なり、月初から月末までの1カ月になります。

会計期間は期首から期末（決算日）までの通常1年ですね。

このように原価計算期間を短い単位にすることにより、もしも原価にムダが生じていたら、早めに改善することができるのです。



原価とは？

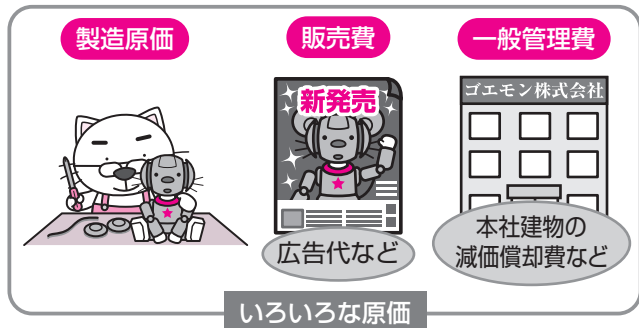


🔍 ロボットを作るためにも、レストランを経営するためにも、材料代、電気代、その他、いろいろなお金がかかっているけれど、どこまでを「原価」として計算すればいいんだろう？ そこで、今度は原価の中身について調べてみることにしました。

● 原価に含まれるものとは？

製品を製造するためにかかった費用のことを**製造原価**といいます。また、原価をもう少し広くとらえると、製品を販売するためにかかった**販売費**（広告代や販売員の給料など）や会社全体を管理するためにかかった**一般管理費**（本社建物の減価償却費など）も含まれます。

減価償却費は建物や機械にかかわる費用で、建物や機械などの固定資産を、その建物・機械の使える年数に応じて少しずつ費用として処理することです。



● 製造原価を分類すると… その①

製造原価は、いくつかの視点から分類することができます。

まず、消費される資源について、何を使って製品を作ったかという視点から、製造原価は材料費、労務費、経費に分類することができます。

たとえば、ロボットを作るときには、鉄板や塗料などの材料はもちろん、作る人も必要です。さらに製品を作るには電気代や水道代もかかります。

この場合の鉄板や塗料といった材料や物品の消費額を材料費、ロボットを作る人の賃金や給料といった労働用益の消費によって生じた原価を労務費、そして、製造原価のうち材料費、労務費以外の費用（電気代や水道代など）を経費といいます。

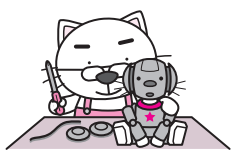
この分類を「形態別分類」といいます。

要するにモノにかかった金額が材料費、ヒトにかかった金額が労務費、それ以外が経費です。

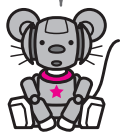
材料費



労務費



経費



この分類を「製品との関連による分類」といいます。

● 製造原価を分類すると… その②

また、製品ごとにいくらかかったかが明らかかどうかという視点から、資源の消費は製造直接費と製造間接費に分類することができます。

ロボットを作るために使用した鉄板代のように、ロボットを作るのにどれだけ消費したかを把握できるものを製造直接費といい、電気代や水道代などのように、ほかのモノを作るときにも使っていて、ロボットを作るのにどれだけ消費したかを把握することができないものを製造間接費といいます。

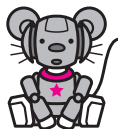
製造直接費



製造間接費



この製品を作るためにどれだけ消費したかが明らかな原価



この製品を作るためにどれだけ消費したかが明らかではない原価

以上の分類をまとめると、次のようになります。

		製造原価の分類		
		形態別分類		
		材料費	労務費	経費
製品との関連による分類	製造直接費	直接材料費	直接労務費	直接経費
	製造間接費	間接材料費	間接労務費	間接経費

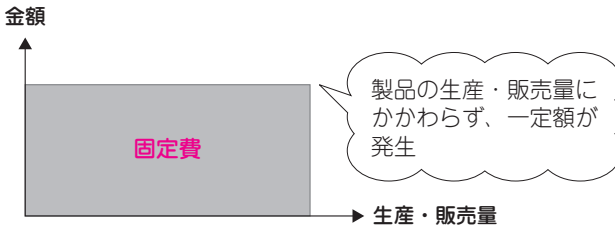
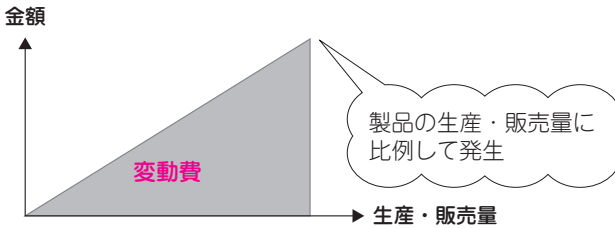
● 製造原価を分類すると…その③

さらに、操業の増減、つまり、生産・販売量に比例して原価が発生するかどうかという視点から、資源の消費は**変動費**と**固定費**に分類することができます。

この分類を「操業度との関連における分類」といいます。

たとえば、材料費は製品を作れば作るほど発生（製品の生産・販売量に比例して発生）しますが、建物の賃借料や減価償却費は、生産・販売量に関係なく一定額が発生します。

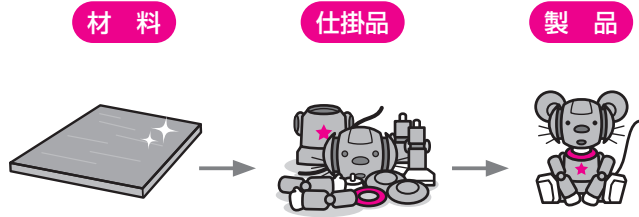
材料費のように生産・販売量に比例して発生する費用を**変動費**、建物の賃借料や減価償却費のように生産・販売量に関係なく一定額が発生する費用を**固定費**といいます。



この流れについては
CASE7でくわしく
みていきますので、
ここでは「仕掛品」
という名称のみおさ
えておきましょう。

● 製造途中のものは仕掛品！

製品は、材料を切る、組み立てるなどの加工をして
完成しますが、加工の途中でまだ完成していないもの
のことを仕掛品しかかりひんといいます。



問題編

第1問対策

問題1